岐阜県職業能力開発施設運営改革検討会
第３回木工芸術スクール部会　議事要旨

１　開催日時及び場所
　令和２年２月１８日（火）１３時３０分～１５時００分
　木工芸術スクール　会議室

２　出席者
　野尻修二座長、井端清秀委員、藤原広行委員、浦西正幸委員、片岡紀子委員、渡辺浩和委員、岩田昌弘委員、滝村昌也委員、倉畑政之委員、大家 実委員

３　事務局
【商工労働部】
　次長、労働雇用課課長補佐兼労働企画係長、人材育成係主任
【木工芸術スクール】
　校長、訓練課長、管理調整係長

４　会議の概要
・あいさつ
・資料説明
・意見交換

５　主な意見
〇学期区分の在り方と夏休みの必要性について
・一年間という短い期間で技術を身につけなければならない職業訓練校が、中学や高校と同じように夏休みをとる必要があるのか疑問。
・夏休みの期間中は学校で訓練を行わないのなら、インターンシップ等で企業の現場を集中的に学べる期間として活用すべき。
・三学期制となっているが、訓練の段階に応じた学期区分になっているのかどうかが分かり難い。
・訓練の段階に応じた学期区分になっているのだとしても、その学期毎に目標とする達成度が一目で分かるような、将来を見通せるようなカリ

キュラムを示すことが重要である。

〇令和２年度生の応募・入校状況と今後の募集・ＰＲについて

・これまで入校生のニーズは十分有ると思っていたので、定員割れが起きるというのは気になる。　世間とのニーズに何かズレが生じているのか、原因の究明が急務。

・ここへ入校する生徒は、職業訓練という部分を現実的なものとしてあまり考えていないと思う。　「家具づくりがしたい」「家具づくりの専門技術を学びたい」と言って入校する人が多いと思うし、「家具職人の育成」に特化していく方針は間違っていないと思うが、それで応募者が単純に少ないというのは、アピールが足りない、皆が知らないということかもしれない。

・スクールの情報発信にフェイスブックを使っているが、フェイスブックは限られたコミュニティの中での対話ツールのようになっていて、広範囲に情報発信するには適していない。　情報発信ツールの見直しも必要。

・施設や訓練の内容的には他県の訓練校より勝っているが、単に広報資材のビジュアルデザインが劣っているのではないか。

・ＰＲしている内容は良いのだが、ホームページやパンフレットの中の文章までたどり着かない。　最初に写真を見て弾かれてしまっているような気がする。

・他県の訓練校に流れた人たちが、何故当校を選ばなかったのかを聞き出すことが重要。

・以前から当校には、他所（他県）から入校して来た人たちが、飛騨で家具職人になって、飛騨の木工の文化に新しい血を注入してきたという文化がある。　当校の応募者が減って、そうした文化が途絶えるのも心配。

・入校生が当校を選んだ理由を積極的にホームページ等で情報発信すれば、次に応募してくる人たちの参考になる。

・高い訓練のレベルに魅かれて応募してくる優秀でやる気のある人もいれば、そうしたレベルには二の足を踏む人もいるはずなので、そのどちらにも響くようなＰＲが必要。

・オープンキャンパスの参加者に対して、飛騨の家具についての展示を行っている飛騨センターのミュージアムの入館料を減免できるよう、木工連として県に働きかけることも可能。

・木工に限らず、別の分野の職業訓練校であっても、訪問して募集方法

や学校運営の特色などを視察してくるのも参考になる。

・せっかく特色化された学校なので、県立高校や特別支援学校のようにキャリアプランナーや進路コーディネーターを会計年度任用職員として雇用するなど、公費をかける意義はある。

・各ハローワークが開催している、高校の進路指導の担当教諭向けの説明会に参加してＰＲすると良い。

・今の若い人達は環境意識が高くて、木工の仕事に対するイメージも変化しているので、技術オンリーではなく、もっと、「木が身近にあって、豊かな森林を維持していく一端を担う仕事」であったり、「飛騨の森を活かせる仕事」という点をアピール出来たら特色が出ると思う。

・木工連が主催する企業説明会については、木工連以外の企業も参加できるよう配慮して欲しい。

〇令和３年度生の入校試験における県外高校に対する推薦枠の拡大について

・特に意見はなし